

長野県飯田市の太陽光発電導入について

～おひさまファンドを核とした南信州地域への太陽光発電普及～

長野県飯田市・おひさまエネルギー：市民と行政が役割分担しながら、協働して太陽光発電を普及させている事例。地域への面的な展開の事例として参考になる。

【概要】

NPO 法人「南信州おひさま進歩」が母体となった「おひさまエネルギーファンド(株)」が、自然エネルギー及び省エネルギー事業に関する市民ファンドの組成、募集、運営、管理などを担いながら、飯田市とも連携して、南信州全域の公益施設や家庭、事業者への太陽光発電装置の導入を活発に推進している。

飯田市内の太陽光発電設置状況（平成 22 年度）：1,384 戸（3.7%、飯田市環境レポート）

注：全国平均：1.5%（平成 22 年度末の累計導入件数：77 万、世帯数 5195 万）

【経緯】

年	NPO の主な活動	事業体の主な活動
平成 16(2004)年	・2 月、市役所にて設立総会、設立を議決	
	・5 月、市民発電「おひさま発電所第 1 号」明星保育園にて点灯式(環境自治体会議飯田会議の一環)	
	・5 月、特定非営利活動法人格取得	
	・12 月、「平成のまほろば事業」プロジェクト開始	・12 月、NPO を母体とし、おひさま進歩エネルギー(有)設立
平成 17(2005)年		・2 月、太陽光発電、省エネルギーの両事業に対して市民出資「南信州おひさまファンド」立ち上げ
		・3 月、飯田市内 38 ヶ所の幼稚園・保育園等の公共施設に計 208KW の太陽光発電の設置が完了。商店や中小規模事業所を対象とした省エネルギー(エスコ)の両事業を開始
	・12 月、環境教育「パネルシアター」の上演を開始	・5 月、個人・法人計 460 名より約 2 億円を出資、募集終了
平成 18(2006)年		・3 月、グリーン電力事業を開始し、飯田市初のグリーン電力証書を、(株)自然エネルギー・コムを通じて、事業者やイベントへ提供(販売)
平成 19(2007)年		・10 月、おひさまエネルギーファンド(株)設立、市民出資エネルギー事業を全国的に展開開始
平成 20(2008)年		・12 月、太陽光発電などの自然エネルギー事業や省エネルギー事業に対して市民出資(温暖化防止おひさまファンド)を募集。個人・法人計 653 名より、4 億 3430 万円調達
平成 21(2009)年		・12 月末、太陽光発電事業を中心とする「おひさまファンド 2009」を募集。個人・法人計 145 名から 7520 万円調達
平成 22(2010)年	・5 月、エコポイントの寄附対象事業者として選定	・10 月から、信州・結いの国おひさまファンドの募集。個人・法人計 103 名から 4790 万円調達

【参加(連携)】

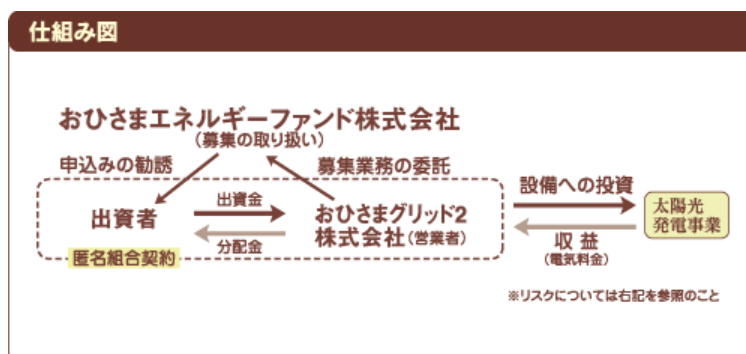
多くの市民が出資者として参加している（2005 年 460 名、2008 年 653 名、2009 年 145 名）。

市は、おひさま発電所（2005 年）の設置施設（市立幼稚園等）で、通常の業務用電力に加え、太陽光発電からの電力について 20 年間固定価格（1kWh = 22 円）での電力購入契約を結んでいる。また、行政財産の目的外使用許可も同様に 20 年間（特例の扱い）とし、さらに、建替え、移転等の場合も契約継続に配慮する規定になっており、これらによって事業の継続性が確保できている。市民出資、行政との連携、地元金融機関（飯田信金）との連携すべてを NPO が主体となってコーディネートしている。

【規模】

南信州おひさまファンド（2005年）	太陽光発電 208kW（38箇所）、省エネ（エスコ）事業
温暖化防止おひさまファンド（2008年）など	2007年度（環境省事業）44箇所、2008年度 48箇所
おひさまファンド 2009 など	太陽光発電 32箇所 累計 162箇所 全発電容量 1,281kW

【収益】 南信州おひさまファンド（2005年） 1口10万と50万円の募集。年間分配利回り：2%～3.3%
 ファンド2億+環境省交付金（環境と経済の好循環まちモデル事業）1.6億 太陽光 1.4億+省エネ等 2.2億
 温暖化防止おひさまファンド（2007年） 1口10万と50万円の募集。年間分配利回り：2.1%～2.6%
 おひさまファンド 2009 1口10万と50万円の募集。年間分配利回り：1.1%～2.5% いずれも計画通り
 信州・結いの国おひさまファンド（2010年） 1口10万と25万円の募集。年間分配利回り 2%～2.5%



【効果】

- ・環境学習：設置している幼稚園等における環境教育として、「パネルシアター」を実施（年間最大2200人）。パネルシアターは、保育園や公民館等に設置された太陽光発電（おひさま発電所）を通して環境教育を行なうために考案された。マスコットキャラクター「さんぼちゃん」を主人公とした物語を、大きな紙芝居のような形で上演し、太陽光発電の仕組み、自然の大切さ、省エネの大切さ等を、わかりやすく子どもたちに伝える。
- ・普及啓発：市民アンケートで、「環境関連の考え方や行動に影響を与えたもの」をきいた結果、もっとも多くの市民が選択したのが「市民共同発電（おひさま進歩）」で約2割に上った（2009年、信州大学調査）。
- ・地域経済の活性化：省エネルギー事業として、商店街エスコ事業を展開、飯田市美術博物館、公共展示施設、養護老人ホーム、製菓販売店、飲食店、介護施設デイサービスセンターなどの省エネ機器設置をおこなった。
- ・防災、安全安心の確保：幼稚園、保育園、公民館、住宅などに設置された太陽光発電は、停電時に自立運転に切り替え、携帯電話やラジオの充電といった比較的少量の電力消費を賄うことができる。

【課題】

- ・一連のおひさまファンドは計画通りの利回りでこれまでは分配されているが、今後の保証が100%あるわけではない。そのためのリスク管理を徹底する必要がある。
- ・一連の事業のうち、比較的初期の事業については環境省の補助金が投入されて成立した側面があり、今後、補助金がなくなると考えられる状況で、同様の事業が成り立つかどうか検討する必要がある。
- ・一般的に、市民ファンドを組成する場合、第2種金融商品取引業として登録するなど、一定の専門知識が必要となる。八王子で取組む場合、核となる組織の構築、ファンド組成準備、専門知識の習得に相当の時間を要する。
- ・一般の電力会社（八王子の場合、東京電力）から購入する電力よりも高い価格で電力を購入することになる場合は、なぜ高いのか、税金をそのことに投入する説明責任が求められる。
- ・公共施設の屋根への設置を想定した場合、耐震性や防水工事との関係など、設置に適した施設を慎重に抽出する必要がある（前回の検討会資料の通り）。

【条例】

- ・飯田市では「再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」が検討中である。

【参考資料】

- ・NPO 法人南信州おひさま進歩 HP <http://www.ohisama-shinpo.or.jp/index.html>
- ・おひさまエネルギーファンド株式会社 HP <http://www.ohisama-fund.jp/>
- ・おひさま進歩エネルギー株式会社 HP <http://www.ohisama-energy.co.jp/index.html>
- ・飯田市 HP <http://www.city.iida.lg.jp/iidasypher/www/info/detail.jsp?id=9593>

The screenshot shows the website for 'ohisama' (おひさま). The main content area is titled 'これまでの実績' (Achievements to Date). It features a map of Nagano Prefecture with numerous yellow sun icons indicating the locations of solar panel installations. Text on the page states that the project is supported by citizens' contributions and aims to promote energy conservation and natural energy. It reports that 253 solar panel installations have been completed with a total capacity of 1,600 kW. A sidebar on the left contains navigation links and a search bar.

南信州全域での設置は累計 253 箇所、設置容量 1,600kW に及ぶ



本プロジェクトによって発電所が設置された幼稚園

(おひさまエネルギーファンド株式会社 HP より)